

4. 札幌版次世代住宅基準の普及に必要な課題について

1 ラベリングについて

(1) 案1(第4回会議で提案)

札幌版次世代住宅基準の普及には、ラベリングによる住宅性能の見える化が必要。市民の視点で、分かりやすく比較しやすいものを目指す。また、作り手の視点で、商品価値の向上を目指す。2011年度に制度検討、2012年に制度開始のイメージ。

- ラベリングの表示内容
- ・ 熱損失係数
 - ・ 暖房負荷量 or 全エネルギー負荷
 - ・ 年間灯油使用量の目安



ラベリングの活用(良好なストックの形成)

戸建住宅に加え、賃貸住宅についても検討する。

- ・ 新築住宅については、ラベリングの義務化を図る。
- ・ 既存住宅については、希望により改修時等にラベリングを付与する。
- ・ ラベリングにより、資産価値の向上と住宅市場の活性化を図る。

(2) 案1に対する意見等

ラベリング(住居に表示する場合を前提に検討)

- ・ 紫外線や風雨で劣化しないように、材質はステッカーではなく金属プレートが望ましい。
- ・ 遠くからでも一目で住宅性能(基準)を判断できることが必要。
- ・ 星の数だけの表示で良いのか、熱損失係数なども併せて表示するべきか検討が必要。
- ・ ラベルには発行年度が必要ではないか。
- ・ 市民のモチベーションが高まる表示、ステータスシンボル、ブランド化が図れる表示が良い。

(3) 案2(第5回会議で提案)

案1に対する意見を踏まえ、新たな提案を行った。

住宅性能(基準)のラベリングは、住居表示プレートと性能保存シートの2つで構成する。

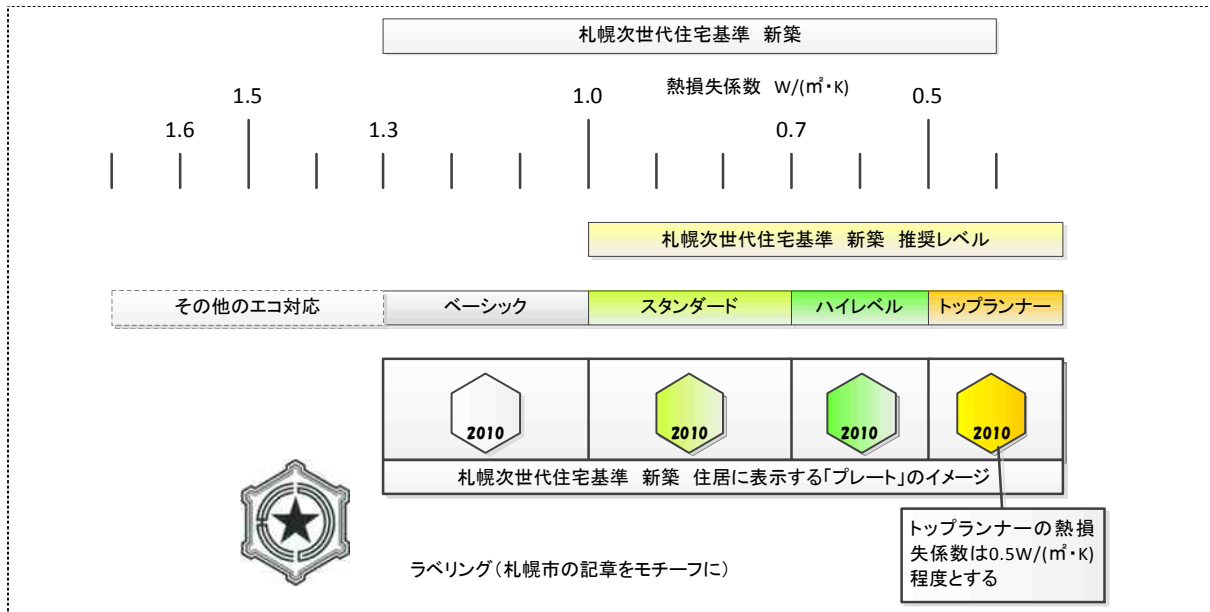
「住居表示プレート」

- ・ 札幌市の徽章をモチーフとした、カラー金属プレートとする。
- ・ プレートには、性能レベルをあらわす色と記号、さらに建築年を記載する。
- ・ デザインは、市民の関心を喚起するようなものを今後検討する。

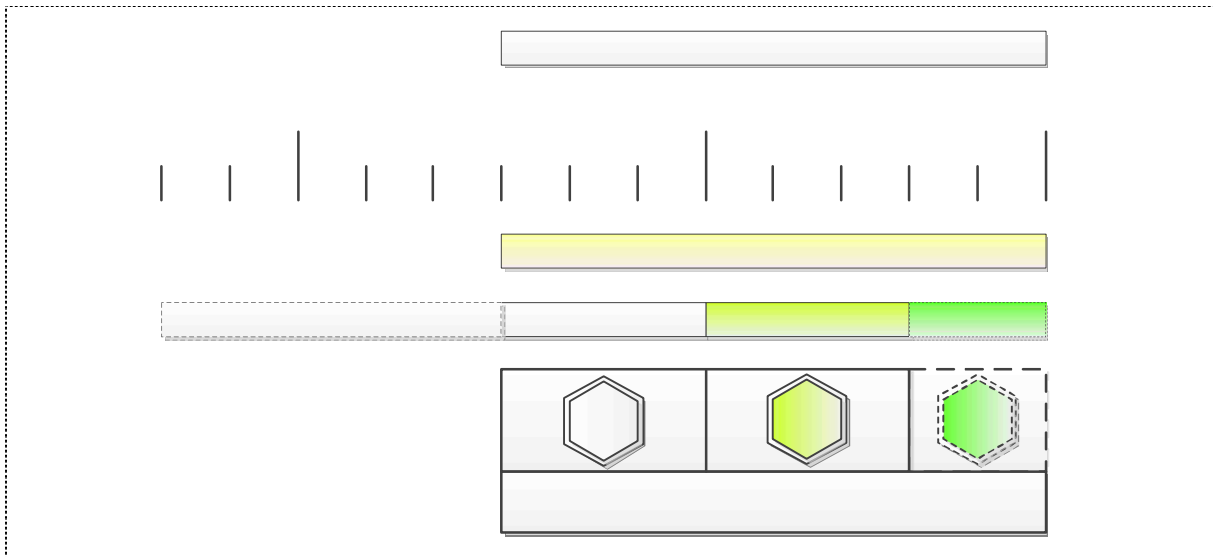
「性能保存シート」

- ・ エネルギー性能(熱損失係数、暖房負荷量などの詳細性能)の計算値を記載した保存用シートとする。

(新築基準の場合)



(断熱改修基準の場合)



熱損失係数は、換気を考慮の上算出した数値とする。

2 技術基準について

(1) 性能の判断基準

申請された性能は、熱損失係数を基準にレベルを判断する。あわせて、暖房用エネルギー消費量の計算を行う。

気密性能(相当隙間面積)については、中間あるいは完成後の確認が必要であるため、気密試験の義務化について検討を行う。

(2) 暖房用エネルギー消費量

- ・消費量計算は、デグリーデー法を主とするが、SMASH等の動的プログラムによる申請も可とする。また、算出方法統一のための、消費量計算ソフトの整備も考えられる。
- ・暖房用エネルギー消費量は、kWhもしくはMJで記載する。

年間の灯油消費量は、性能を保証するものではないものの、住まい手が計算値と実際の消

費量の違いを考えることにより、住宅の省エネ性能を考える機会となる。

(3) 夏季日射遮蔽

- ・断熱性向上にともなう夏季のオーバーヒート対策について、日射の遮蔽に関する記述を行う。

(4) その他

- ・北方型住宅の技術基準との整合性、北方型住宅サポートシステムとの連携について検討を行う。
- ・国や道の補助制度を活用する場合もあるため、省エネルギー性能以外の耐震・維持管理性能などの整備についても検討を行う。